

ニュースで使用される言語における要点の移動について

轟 里香\*

On Moved Important Elements of Sentences Used in Japanese  
News Programs

Rika Todoroki\*

## ニュースで使用される言語における要点の移動について

轟 里香\*

### On Moved Important Elements of Sentences Used in Japanese News Programs

Rika Todoroki\*

*Received December 8, 2015*

#### Abstract

This article is a study of linguistic phenomena which occur in Japanese TV news programs. In those programs, important elements are often moved rightward in various ways. In a typical case, the first sentence of one news story lacks important elements, which appear in the following context gradually. Those elements include grammatically required arguments and important information. Another way to move important elements rightward in Japanese is to use noun phrases instead of sentences. This way enables us to move nouns with important information rightward because Japanese is a head-final language.

This article examines these two ways to move important elements rightward. And I refer to examples in 1970s and try to show how the linguistic phenomena started to appear, in order to reveal factors which cause the phenomena. In the examples, the first sentences have all the grammatically required elements but do not state the themes of the news stories. This type of text structure seems to have developed and led to structures with sentences which lack grammatically required elements.

Furthermore, I show that these linguistic phenomena can be related to education in Japan, concerning both Japanese and English languages.

#### 1. 導入

本論文は、日本語のニュースで用いられる言語における要点の後方への移動について考察する。

日本語のニュース番組<sup>1</sup>において見られる言語現象の中に、文の要点や必須の要素を後ろのほうに動かしたり省略したりする現象がある。轟(2007)はこのような言語現象を「要点の後置・省略」と呼んでいる。轟(2013)は、「要点の後置・省略」にいくつかのタイプがあることを指摘し、後ろに動かされたり省略されたりした部分の情報が、どのような形で補われるか(あるいは補われないか)という点で3つのパターンに分類できることを示した。轟(2014b)は、ニュースに出現する「要点の後置・省略」のタイプの違いと、後ろに動かされたり省略された

---

\*未来創造学部 School of Future Learning

りした部分の情報の補われ方との関連を示した。轟 (2014a) は、談話の構造的な要点の後置だけではなく、名詞句の使用など様々な言語現象が要点を後置するという点で共通していることおよびその背後にある社会的要因の一つを明らかにした。

本論文は、轟 (2007, 2013, 2014a,b) の議論に基づき、ニュースで使用される言語において、冒頭で省略された要点が後で述べられるという現象について考察する。轟 (2014a,b) が示すように、要点の移動には様々な方法があるが、そのうち、本論文では構造的な要点の移動と名詞句の使用による要点の移動を取り上げる。これらの現象について、近年の例と過去の例を見ることにより、要点の移動が行われる背後にある要因を探る。そして、この現象が日本語の言語的特性また日本語をめぐる教育の事情と関連があることを示す。加えて、このことが、英語を学ぶ日本語母語話者に及ぼす影響について考える

本論文の構成は次のようなものである。2 節では、要点の移動の例として、二つのタイプの構造的な要点の移動を示す。3 節では、名詞句の使用を要点の移動の観点から見る。4 節では、過去に放送されたニュースの例における要点の移動例とその特徴を見る。5 節では、このような要点の移動の背後にある要因、およびこれが英語学習者にどのような影響を与える可能性があるかを指摘する。6 節では、本論文の議論のまとめを行う。

なお、本論文では、スポーツ関連のニュースは主な議論の対象からはずしている。これは、スポーツ関連のニュースが独自の性質を持つためである<sup>2</sup>。

## 2. 要点が移動された構造

要点が移動された構造のニュースでは、そのニュース項目の中で最も重要な情報を表す文が、第二文以降に置かれる。このような構造の談話は、冒頭の文の性質によって二つの種類に分けることができる。一つは、冒頭の文が、統語的に必須の要素やいわゆる 5W1H に属する情報の一部を欠いているものである。もう一つは、冒頭には必須の要素を省くような文は出現していないが、全体としてみると、ニュースのトピックが分かるのが初めではなく後のほうであるような場合である。

### 2.1 冒頭の文中に必須要素の省略がある場合

次の (1) から (11) は、いずれもそのニュース項目での冒頭の文であるが、文の様々な要素が省略されている<sup>3</sup>。

- (1) 我が家でも飼っています。  
(「ニュース 7」NHK、2011 年 6 月 24 日放送、轟 2013:170)
- (2) 700 万円払った部下もいました。  
(「ニュースウォッチ 9」NHK、2007 年 12 月 21 日放送、轟 2008:125)
- (3) 洪水の被害はいつまで続くのでしょうか。  
(「ニュース 7」NHK、2011 年 11 月 12 日放送、轟 2011:5)
- (4) 早くも梅雨入りです。  
(「ニュース 7」NHK、2013 年 5 月 27 日放送、轟 2013:170)
- (5) 中国でも人気です。  
(「ニュース 7」NHK、2014 年 11 月 28 日放送、轟 2014b:83)
- (6) むしゃくしゃしてやった。  
(「ニュース 7」NHK、2014 年 12 月 1 日放送、ibid., 83)

- (7) 雪の中、暖房の効かない列車に 8 時間近く閉じ込められました。  
 (「ニュース 7」NHK、2014 年 12 月 3 日放送、ibid., 83)
- (8) 大型連休最終日の今日、大きな事故につながりかねないトラブルが起きました。  
 (「ニュースウォッチ 9」NHK、2013 年 5 月 6 日放送)
- (9) 巨大な自動車運搬船が関係した可能性が出てきました。  
 (「ニュースウォッチ 9」NHK、2013 年 6 月 24 日放送)
- (10) 地域によっては出産ができなくなるかもしれません。  
 (「おはよう日本」NHK、2014 年 12 月 1 日放送)
- (11) 今年 3 月期 1200 億円の黒字の見通しが、一転して 378 億円の赤字です。  
 (「ニュース 7」NHK、2015 年 9 月 7 日放送)

これらの文はいずれも、談話の冒頭の文としては違和感がある。これは、文法的基準を破っていることによる。例えば、(1) では、動詞「飼う」がもつ意味役割の一つが付与されるべき項がない。Chomsky (1981) で提案された  $\theta$  基準では、項と意味役割は一对一対応の関係になければならず、いかなる項にも付与されない意味役割が存在することは禁じられている。この基準を破ると、次のように非文法的な文となる。

- (12) \*John put on the table. (中村、他 1989:77)  
 (13) \*ジョンはテーブルの上に置いた。(轟 2013:170)

(12) では、動詞 put がもつ意味役割の一つである Theme が付与されるべき項がない。同じように、(13) でも、動詞「置く」がもつ意味役割の一つが付与されるべき項がない。したがって、(12) (13) は  $\theta$  基準違反となる。

先に挙げた例を見ると、文法的基準に違反した (13) のような文が、ニュースにおいて出現していることが分かる。例えば、(1) では、動詞「飼う」の目的語が省略されることによって、「飼う」の目的語に付与される意味役割に対応する項が存在しないことになる。

また、(2) にある「部下」という名詞は、初出時には「だれの」を表す情報を必要とする<sup>4</sup>が、(2) ではそれが省略されている。

「いつ」「どこで」などの情報が省略されている場合もある。これらは、従来ニュースで必要とされていた、いわゆる 5W1H に属する情報である。例えば、(4) では、「どこで」梅雨入りしたのかが省略されている。

これらの文を冒頭の文とするニュース項目を、続く文と共に示すと以下のようになる。

- (14) (cf. (1)) 我が家でも飼っています。子供たちが触っているのはカブトムシです。この施設ではおよそ 1 万匹が放し飼いにされています。明日のオープンを前に地元の子供たちが招かれました。仲良く遊んでね。

(ibid., 175)

- (15) (cf. (2)) 700 万円払った部下もいました。神奈川県警察本部の警視が関与した疑いが出ている靈感商法事件で、この警視は、部下の警察官を靈感商法が行われていたサロンに勧誘したり、投資話を持ちかけて金を集めていたことがわかりました。

(ibid., 172)

- (16) (cf. (3)) 洪水の被害はいつまで続くのでしょうか。タイは、満潮のときの潮位が特に高くなる大潮を再び迎えました。被害が長期化する中、タイのスラポン外相と会談した玄葉外務大臣は、日系企業の操業を早期に再開させるため、タイ

政府の協力を要請しました。

(「ニュース 7」NHK、2011 年 11 月 12 日放送、轟 2011:5)

- (17) (cf. (5)) 中国でも人気です。ずらりと並んだ日本の漫画。中国北京の大学に、専門の閲覧室がオープンしました。日本文化への理解を深めてもらおうと、日本の明治大学が協力しました。

(「ニュース 7」NHK、2014 年 11 月 28 日放送)

- (18) (cf. (6)) むしゃくしゃしてやった。逮捕された 22 歳の男はこう供述しているということです。建築中の住宅を狙った東京多摩市の連続放火事件。男は一件目の事件の直前にガソリンを購入し、容器に入れていたことが警視庁への取材で分かりました。複数の現場からはガソリンや灯油が入った容器が見つかっていて、警視庁はいずれの事件でも油を準備して火をつけたと見て捜査しています。

(「ニュース 7」NHK、2014 年 12 月 1 日放送、轟 2014b:90)

- (19) (cf. (7)) 雪の中、暖房の効かない列車に 8 時間近く閉じ込められました。今朝山形市と仙台市を結ぶ JR 仙山線で雪の影響で停電が発生し、およそ 300 人を乗せた快速列車が動けなくなりました。ようやく動き出したのはおよそ 8 時間後でした。

(「ニュース 7」NHK、2014 年 12 月 3 日放送、ibid., 91)

- (20) (cf. (8)) さあ、大型連休最終日の今日、大きな事故につながりかねないトラブルが起きました。ご覧の映像は、大分空港を離陸し、大阪に向かう日本航空の小型ジェット機。この旅客機が、大阪空港着陸直後にエンジン火災を起こしました。

(「ニュースウォッチ 9」NHK、2013 年 5 月 6 日放送、轟 2013:171)

- (21) (cf. (9)) では、次です。巨大な自動車運搬船が関係した可能性が出てきました。こちら、きのう宮城県沖で発見されたマグロ漁船の船首部分です。船長は今も行方不明のままです。当時現場海域を外国船籍の自動車運搬船が航行していたことが分かり、海上保安本部が詳しい状況を調べています。宮城県金華山の沖合 300 キロ。浮かんでいるのは、2 つに割れた漁船。その船首部分です。さらに、離れたところには、沈没しかかった船尾部分。高知県須崎市のまぐろはえ縄漁船、第七勇仁丸が 2 つに割れていました。きのう午前 10 時過ぎ、遭難信号を発信。船長の義澤宏志さんが行方不明となっています。海上保安本部によりますと、救助された乗組員は、自分たちの漁船に大きな船が衝突してきたと話しているということです。

(「ニュースウォッチ 9」NHK、2013 年 6 月 24 日放送、ibid.,171)

- (22) (cf. (10)) 地域によっては出産ができなくなるかもしれません。出産を扱う産科の医師の数について、先月、衝撃的な予測が発表されました。(日本産婦人科医会会長の会見の映像と音声が入る。) 産科医は今後 10 年で東京など都市部では増える一方で、地方都市では大幅に減るなど、地域間の格差がさらに広がると見られています。

(「おはよう日本」NHK、2014 年 12 月 1 日放送)

- (23) (cf. (11)) 今年 3 月期 1200 億円の黒字の見通しが、一転して 378 億円の赤字です。不正な会計処理が発覚し、二度にわたって決算発表の延期に追い込まれる異例の事態となっていた大手電機メーカーの東芝は、過去の決算を修正して発表しました。

(「ニュース 7」NHK、2015 年 9 月 7 日放送)

いずれの例も、冒頭文に続く部分を見ると、冒頭文で省略された要素が続く部分で述べられている。このような形で、要点の後方への移動が行われている。

このように、要点が移動された構造がニュースにおいてしばしば見られる。このような構造は文学作品でとられる構造と類似している。以下の文章は文学作品の構造の一例を示している。

(2013年の芥川賞の)受賞作「爪と目」は、妻を亡くした男性と同居を始めた愛人と、亡くなった妻の幼い娘との間に漂う、不穏な緊張感を描いた物語。受賞時、書き出しの一文が話題をさらった。「はじめてあなたと関係を持った日、帰り際になって父は『君とは結婚できない』と言った」――。思わず読み直してしまうような違和感は、「わたしは三歳の女の子だった」という説明で「娘が語り手なのか」と解消されるけれど、怖いのはそこから。幼い「わたし」が年上の「あなた」の行動を淡々とつづる文章は、愛人が常に娘から監視されているような不気味な錯覚を生み、その先に壮絶なラストシーンが待ち受ける。

(「どう書くか 沈黙の1年」朝日新聞 2013年11月30日、轟 2013:172)

この小説の冒頭の文は、「思わず読み直してしまうような違和感」を生んでいる。それが、その後の説明で「解消される」という構造になっている。

小説とテレビニュースでは、文字言語と音声言語という違いはあるが、この小説でとられている上のような構造と、ニュースでしばしばとられている構造は、次のように比較することができる。この小説の冒頭の文は、「違和感」を生むが、これは必須要素の省略を含んでいるためである。ここで省略されている要素の一つとして、「父」がだれの「父」なのかという情報がある。一方、次の(24)は(25)のニュースの冒頭の文であるが、「部下」がだれの「部下」なのかという情報が省略されている。

(24) (= (2)) 700万円払った部下もいました。

(25) (= (15)) 700万円払った部下もいました。神奈川県警察本部の警視が関与した疑いが出ている靈感商法事件で、この警視は、部下の警察官が靈感商法が行われていたサロンに勧誘したり、投資話を持ちかけて金を集めていたことがわかりました。

(25)を見ると、冒頭の文で省略されている、「部下」がだれの「部下」なのかという情報が、その後次第に明らかにされていくという構造になっている。一方、上に述べた小説では、冒頭の文で省略されている「父」がだれの「父」なのかという情報が、続く説明で明らかにされていくという構造になっている。ともに、冒頭で要点の省略が行われ、その後それを明らかにするというしかたで、要点の移動が行われている。この点において、これらのニュースと小説で取られている構造は類似していると言える。

小説において冒頭文における省略が行われることには目的がある。これは、次の文章に示されている。

藤沢周平の小説は、最初の一文を読むと、次を読まずにいられない。(中略)「誰かに見られている、と思った」と始まる「おつぎ」のように、そう認識する主体を出さない入り方も読者を引き込む。「とっさに背を向けたが間にあわなかった」という「晩夏の光」の冒頭文はさらに極端で、情報の空白を追って読者は身を乗り出す。

(中村 (2014)、轟 2014a:38)

小説の場合、冒頭で「情報の空白」をつくることによって、読者を引き込むことを意図していることが分かる。このように、読者の心に働きかけることが小説の構造の目的である。

ここで述べられている「情報の空白」は本稿で議論している要点の省略に対応するものとみなすことができる。「情報の空白」をつくることはすなわち要点を省略することである。これを冒頭で行い、その要点を後で示すという形で要点の移動を行うことになる。ニュースにおいて冒頭文で要点の省略が行われるということは、すなわち、小説に似た構造をニュースでとるということである。小説の場合、このような要点の移動を行うのは読者を引き込むことを意図しているものであるが、このような、小説の構造と類似した構造がニュースでとられるようになった背後にある要因については、5節で扱う。

## 2.2 冒頭の文中に必須要素の省略がない場合

要点が後方に移動される構造の中には、冒頭の文が必須要素を欠いているわけではないものもある。そのような場合にも、全体として見ると、ニュースのトピックが分かるのが初めてではなく後のほうになっている。次の例を見てみよう。

- (26) タオル産業が盛んな愛媛県今治市。佐賀県特産の陶磁器の有田焼。そして香川県名物のさぬきうどん。いずれも、地名や特産品の名前が中国で勝手に商標として出願されたり、登録されたりしたことから、地元の自治体などが登録の阻止や取り消しを求めるなどの対応を迫られました。無関係な第三者が海外で勝手に商品登録をするこうした悪意の商品出願。その対策などについて話し合う国際会議が今日から東京で始まりました。

(「ニュース7」NHK、2014年12月3日放送、轟 2014b:86-87)

(26) の冒頭には必須の要素を省くような文は出現していない。しかし、談話の構造としてみると、何のニュースなのかがなかなか分からないような構造になっている。上にあげた部分の最後のほうになって初めて、無関係な第三者による海外での商品出願の対策について話し合う国際会議についてのニュースであることが分かるという構造になっている。

## 3. 要点の移動としての名詞句の使用（「体現止め」）

この節では、要点の移動という点から名詞句の移動を考察し、文の代わりに名詞句を使用することが、要点の移動と見なせるということについて述べる。

いわゆる「体言止め」を使用したニュースの例は、以下のようなものである。

- (27) 民主党の輿石参議院議員会長、昨夜 NHK のニュース番組で、「小沢代表一人が延長反対と言っているのではない、(筆者による中略)」と述べ、党内で異論があっても延長反対でまとめたという考えを示しました。

(「おはよう日本」NHK、2007年8月23日放送、轟 2007:126、下線は筆者)

- (28) 吸引すると興奮作用があり、幻覚や幻聴の症状が出ることもある脱法ハーブ。

(「ニュースウォッチ9」NHK、2012年6月12日放送、轟 2014a:35)

- (29) 幾多の困難を乗り越え、地球から3億キロ離れた小惑星の微粒子を持ち帰った探査機はやぶさ。

(「ニュース7」NHK、2015年9月7日放送)

この三つの例には違いがある。(27)における下線部は、「民主党の輿石参議院議員会長は」の助詞「は」が省略された結果生じたものである。これに対し、(28)は、「脱法ハーブ」という名詞に修飾語句が着いた名詞句で、結果として最後が名詞で終わっている。これが(30)のような文の代わりに用いられている。

(30) 脱法ハーブは、吸引すると興奮作用があり、幻覚や幻聴の症状が出ることもある。

(29) も (28) と同様である。

(27) と (28) (29) の二つのタイプのうち、(28) (29) を要点の移動と次のように関連付けることができる。句の中心となる語を主要部といい、名詞句においては名詞が主要部となる。その位置に関し、日本語は英語などとは異なった特性を持つ。日本語は「主要部末端言語」と言われるように主要部が句の末端にくる言語である。これに対し、英語は、「主要部先端言語」と言われるように、主要部が句の先端にくる言語である。したがって、修飾語句を伴う名詞句を用いると、日本語では、主要部の名詞が最後にくるのに対し、英語では句の前のほうにくる。

(31) (下線部が名詞句の主要部)

- a. ステージで歌っている少女
- b. the girl singing on the stage

(轟 2014a:42)

このように、日本語では言語的な特性上、修飾語句を伴った名詞句を用いることによって、主要部である名詞が最後に来ることになる。名詞は語彙的要素であるため、名詞句の主要部である名詞は要点である場合が多く、そのような場合に文の代わりに名詞句を用いれば要点が後ろに来ることになる。このように、日本語においては名詞句の使用を要点の移動とみなすことができる。

#### 4. 過去のニュースにおける要点の移動

ここまでで、近年のニュース番組において、要点の移動がどのように行われているかを見た。それには、構造的に要点の移動を行うだけではなく、文の代わりに名詞句を使うという方法も含まれる。

この節では、このような要点の移動が過去のニュース番組でどのように行われていたかを見る。これは、要点の移動を行う背景にある要因を知るためである。

「ニュースセンター9時」(NHK、1974年4月1日に放送された)では、単文の述部や必須の要素を省くような例は出現していない。しかし、談話の構造としての要点後置は複数回見られる。そのうちの一つは、以下のようなものである。

(32) さて今日から新しい年度が始まります。ちょっとこれをご覧ください。これは今日から各銀行が一斉に売り出しました宝くじ付きの定期預金です。でまあ、思わず手に入る百両と、これは春から縁起がいいわいと言いたいところなんですけれども、一千万円に当たる確率というのは実に30万分の1ということなんですけれども、それでも出足はなかなか好調のようでした。この辺にもインフレに苦しむ国民のささやかないわば夢が秘められているという気がいたします。狂乱物価とか物価の鬼とか呼ばれておりますインフレ

は、今日の年度替りで一体正気づくのか、それともかえって加速していくのか、ここらへんの物価と暮らしの関わり合いについて、経済部の大山記者に東京都内を実感的なりポートをしてもらいました。

(「ニュースセンター9時」NHK、1974年4月1日放送、下線は筆者)

(32)の冒頭には、単文の必須の要素(文の項や5W1H)を省略した文は含まれていない。しかし、談話の構造としてみると、何のニュースなのかがなかなか分からないような構造になっている。上に挙げた部分の最後のほうになってはじめて、下線部が示すように、このニュースは物価に関するニュースであることが分かる。次も、同様の例である。

(33) さて、イギリス人ほどではありませんけれども、私たち日本人も季節の移り変わりというものに極めて敏感です。つい4日前に季節はずれの春の雪に見舞われました東京は、今日はまるでうって変わった5月上旬のぼかぼか陽気です。どうも少しおかしいと、気象が尋常ではないというのが茶の間話題を呼んでおります。ちょっとこの図をご覧ください。これはアメリカの衛星ニンバス5号がマイクロウェーブを使って撮影しました南極大陸の写真です。最初のこの写真を撮ってからわずか1か月半後に撮影したこの写真ではこれだけの変化が起きておりまして、別の言葉で言えばこの一月半の間にこの分だけの氷がなくなってしまったということになります。面積にしますと日本のおよそ8倍の氷の大陸が消えて解けてしまった<sup>5</sup>ということになるわけです。まあ、こうした一つのことが象徴するように、世界の気象の異常ぶりというものが目立つわけですが、これについて、この気象の異常ぶりを丹念に調べておりました気象庁は、今日、異常気象白書というものを発表しました。

(「ニュースセンター9時」NHK、1974年4月1日放送、轟 2013:179)

(32)とは違い、(33)で挙げた部分では、この部分を最後まで見てもどれが主要なトピックなのかははっきりしない。この部分の後には、世界各地からの気象に関する報告が続く。それも含めてこのニュース項目全体を最後まで見ると、このニュースは全体として「異常な」気象に関するニュースであったことが分かる、という構造になっている。

このような例が示すように、談話としての要点後置の構造は1974年のニュースの段階ですで見られる。このニュース番組では、上に挙げた例の他にもこのような構造が出現している。出現の回数は4回確認できる。

2節で述べたように、要点が移動された構造の談話は、冒頭の文の性質によって二つの種類に分けることができる。一つは、冒頭の文が、統語的に必須の要素やいわゆる5W1Hに属する情報の一部を欠いているものである。もう一つは、冒頭には必須の要素を省くような文は出現していないが、全体としてみると、ニュースのトピックが分かるのが初めではなく後のほうであるような場合である。この二つのうち、1974年に出現しているのは後者のほうである。このことから、要点の移動は談話の構造的な要点後置から始まり、その後冒頭の文で文法的に必須の要素を省略した文を用いるようになったと考えられる。

次に、要点の移動としての名詞句の使用についてみてみよう。轟(2014a)が指摘するように、この番組では、スポーツのニュース以外で体言止めが1回出現している。しかし、これは名詞に修飾語句がつくタイプではない。

(34) エアバス、いわゆる超大型機エアバスが、今日から国内幹線に初登場、わが国もいよいよ空の大量輸送時代に突入しました。

(「ニュースセンター9時」NHK、1974年4月1日放送、轟 2014a:46)

このタイプは、主に語調の効果を目的に使用されると考えられる。よって、名詞に修飾語句がつくタイプの体言止めは、この番組では（スポーツニュース以外には）出現していないことになる。したがって、この時期の要点の移動は、スポーツニュース以外のニュースでは主に談話の構造として行われていたと言える。

このように、談話の構造としての要点の移動が早い時期から行われていたということは、要点の移動が行われる要因を知る手がかりとなる。この点については、以下の節で言及する。

## 5. 英語学習者に対する影響

上に述べたように、近年のニュースにおいては、談話としての構造や名詞句の使用により、要点の後方への移動が行われている。これらに接することは、英語学習者に影響を及ぼす可能性がある。これは、英語が文法的にも談話的にも重点先行型の言語であることによる。

### 5.1 文法的な影響

まず、文法的な面を考えてみよう。これに関わるのは、ニュースにおける名詞句の使用である。

3 節で述べたように、日本語は、文法的には元来主要部末端型である。このことは、日本語の母語話者が第二言語として英語を学ぶことを困難にする大きな要因の一つとなる。これは、次のような単語並べ替え問題に対して、しばしば誤った解答がされることに現れている。

(35) 本を読んでいる女の子は私の娘です。

The ( ) ( ) ( ) ( ) my daughter.

1 is 2 reading 3 girl 4 a book

(佐藤、他 2007:28)

(35)に対する教科書の解答では、「本を読んでいる女の子」に対応する英語は“the girl reading a book”となっている。(下線部が主要部である。)これに対し、轟(2007)が指摘するように“\*the reading a book girl”という誤った答えがしばしば見られる。比較のために、この名詞句の一部となっている「本を読んでいる」の部分をも、誤解答から句として取り出してみると、この部分では正しく“reading a book”となっており、“\*a book reading”とはしていない。このことから、日本語を母語とする英語学習者は、英語の名詞句における主要部の位置の習得に特に困難を覚えている様子が観察される。

このことには、英語の名詞句の主要部の位置に例外が存在することも影響していると考えられる。

(36) a. the children playing in the park

b. the boys who attend a co-educational school

c. the excited fans

d. the famous stories

英語は基本的には主要部先端型であるが、(36)が示すように、名詞句において形容詞や一

語の過去分詞などによって名詞が修飾される場合には、(日本語のように) 主要部の名詞が名詞句の末端に来る。このことが、日本語を母語とする英語学習者をいっそう混乱させると考えられる。

このように、名詞句の場合、多くの学習者が母語である日本語の主要部末端型に影響されて、英語でも主要部の名詞を句の最後に置いてしまう。このことを考えると、ニュースで頻出する、非主要部が長い名詞句と度々接することは、英語学習者が英語でも主要部の名詞を常に句の最後に置いてしまう傾向を強める可能性がある。

## 5.2 談話的な影響

次に談話的な影響を見てみよう。

英語は構造的にも要点先行の傾向がある。文学作品などの場合であれば、要点をあえて後方に移動させることもあり得るが、論説文や論文でそのような構造を用いることはまれである。木下(1990)は、過去に英語圏の研究者が、日本では説明文・論述文が要点先行でないことと捉え、これに違和感を持ったと述べている。

日本語でも、グローバルな情報化社会の基準に合わせる立場からは、論説文や論文では要点を最初に述べるのが良いとされる。この立場からは、要点を後に回す構成が効果的だとみなされるのは、文学作品などに限られる。大学などでもレポートや口頭発表などにおいては、要点をできるだけ早く述べるよう指導されている場合が多い。このことを、木下は次のように述べている。

報告・説明の文章や、ある考えを主張するのが目的の文章では、真っ先に大事なポイント(要点)を書く—重点先行で書く—ことが情報化時代の要請である。レポートももちろんその例に漏れない。この点で、そろそろと言いきりこして、それを承けてようやく本論にはいっていき起承転結式の書き方は、現代のレポートには向かない。

(木下 1990:119)

レポート全体の構成として「重点先行」にするため、木下は、その研究調査がどのような結論に達したのかを序論の段階で述べるよう勧めている。

また、パラグラフのレベルでも、「重点先行」が勧められている。パラグラフには、その要点を述べるトピックセンテンスがある。トピックセンテンスは、パラグラフのどの位置に置かれることも可能ではあるが、重点先行の観点から、できるだけパラグラフの最初に述べられることが望ましいとされている。

このような「重点先行」の構成に対し、「起承転結」という構成は、漢詩の組み立て方に由来するものである。この構成について、木下は次のように述べている。

起承転結の構成は、人の心を動かす文学的效果をもっており、話し上手といわれる人のスピーチはこういう組み立てになっていることが多い。また、情報の伝達よりも「人の心を打つ」ことに重きを置いた従来の作文教育では、文章を起承転結の順に組み立てるように指導する教師が多かった。

(ibid., 100)

起承転結という構成に対し、英語圏の研究者は違和感を持った。先に述べたように、彼らは、説明文・論述文では要点を先に述べるものと考えており、その一方で、起承転結を日本の説明

文・論述文のレトリックと解釈していたため、起承転結という構成に違和感を持ったのである。木下はこれ（起承転結が日本の説明文・論述文のレトリックであるということ）を英語圏の研究者の誤解としているが、責任の一端は日本の作文教育にあるかもしれないと述べている。すなわち、日本の作文教育においては、情報の伝達よりも「人の心を打つ」ことに重きが置かれたことから、良い文章とは人の心に働きかける文章であるとみなされる傾向がある。これにより、説明文・論述文においてもしばしば起承転結という構成がとられてしまうことになる。

木下の議論をまとめると、次のようになる。文章の構成には「重点先行」型と「起承転結」型がある。説明文・論述文は「重点先行」型で書かれるべきである。「起承転結」型は文学的な効果を必要とする文章にのみ用いることが可能で、その他の文章では用いるべきではない。英語圏では説明文・論述文が「重点先行」型で書かれることは当然のこととされている。これに対し、日本では、ともすると説明文・論述文に「起承転結」型を用いてしまう傾向がある。これは、伝統的な作文教育において、情報の伝達よりも「人の心を打つ」ことに重きを置いていたためである。

以上のことを踏まえて考えると、ニュースでしばしばとられる構造は、「起承転結」型であって、「重点先行」型ではないことが分かる。つまり、要点が最初には明らかにされず次第に明らかになってくるような構造である。このような構造がとられる理由は、「人の心を打つ」ような言語表現が良い言語表現であるとみなされる傾向が影響しているためと考えられる。

教育現場で書かれる文章の多くは、小説よりも説明文・論述文であり、本来重点先行で書かれるべきものである。一方、日本には「人の心を打つ」文章が良い文章だと考える傾向があり、「起承転結」型の構造がしばしば用いられる。このような構造に慣れてしまうと、重点先行が必要な種類の文章（レポートや口頭発表など）においても要点を後方に移動させた構成をとってしまう可能性が高くなる。

上の議論は、ニュース番組における、談話の構造としての要点の移動だけでなく、要点の移動全般の背後にある要因を知る手がかりともなる。先に述べたように、過去のニュース番組のデータによれば、談話の構造としての要点の移動は早い段階で始まっている。その後、要点を移動するその他の方法（名詞句の使用など）が用いられるようになったと考えられる<sup>6</sup>。このことから、ニュース番組における要点の移動全般の背後には、「人の心を打つ」ような言語表現が良い言語表現であるとみなされる傾向が、重要な要因の一つとして存在すると言える。

## 6. 結論

本論文では、近年のニュース番組にしばしば見られる要点の移動という現象について議論した。

要点の移動には、談話の構造として行われるものがある。これは二つのタイプに分けることができる。一つは、ニュースの冒頭の文で必須要素を省き、後から述べるものである。もう一つは、冒頭の文には必須要素の省略はないものの、そのニュースの主要なトピックが何なのかが後のほうにならないと分からないような構造になっているというものである。

一方、文の代わりに名詞句を用いるという現象も、要点の移動として捉えることができる。これは、主要部末端言語である日本語の言語的特性により、名詞句では主要部の名詞が句の末端に来るためである。文の代わりに名詞句を用いることによって、要点である名詞を後のほうに動かすことになる。

過去のニュース番組のデータを見ると、このような要点の移動のうち、談話の構造としてのものが早くから見られる。このことから、談話の構造としての要点の移動を引き起こしている要因が、他の形式の要点の移動の背後にもあると考えられる。

このような、要点が後ろのほうにある構造が用いられる背後には、「起承転結」型を推奨する教育があると思われる。要点が後ろのほうにある構造は、文章の構成としては文学作品で用いられる「起承転結」型に近い。日本の作文教育では、伝統的に、人の心を打つような文章が良い文章とされ、「起承転結」型が推奨された。他方、レポートや論文などでは、要点をできるだけ前のほうに置くことがよいとされており、「起承転結」型はなじまない。それにもかかわらず、文学的な文章以外の文章にも「起承転結」型が好まれ、要点を後ろに動かす傾向がある。このように、ニュース番組における要点の移動の背後には、「起承転結」型を推奨する教育があると思われる。

一方、ニュース番組における要点の移動は、英語を第二言語として学ぶ日本語母語話者に影響を及ぼす可能性がある。日本語は、句のレベルでは、主要部末端言語、談話のレベルでも上に述べたように「起承転結」型が良いとされる傾向がある。一方、英語は、句のレベルでは、主要部先端言語、談話のレベルでも、小説など文学作品を除けば、要点を先に述べる傾向の強い言語である。このように、日本語と英語は句のレベルでも談話のレベルでも正反対ということになり、これは、日本語母語話者が英語を学ぶ際の障害となり得る。

以上のように、ニュース番組における要点の移動は、教育と密接な関係がある。要点の移動は英語教育に影響を与える可能性がある。それと同時に、日本語における「起承転結」型の作文教育が要点の移動を生じさせる要因となっている。本論文は、要点の移動と教育との間にこのような相互関係があることを示した。

## 註

本論文は、2013（平成 25）～2014（平成 26）年度北陸大学特別研究教育助成による研究成果である。

1 本論文中のニュースの例は、NHK で放送されたものである。NHK の分類では、放送するプログラム全体を、「ニュース」とそれ以外のプログラムに二分し、「ニュース」以外のプログラムを「番組」としている。本論文では、「番組」という語を「テレビで放送されるプログラム」という一般的な意味で用い、ニュースを扱っているプログラムを「ニュース番組」と呼ぶことにする。

2 スポーツニュースにおける言語現象とその他のニュースとの関連については、轟（2014a）を参照されたい。

3 本稿で挙げるニュースの言語例の大部分は、参考文献から引用したもの、および筆者が録画したものである。(32) は、放送ライブラリーにおいて公開されている（2015 年現在）ものを閲覧して得た例である。

4 『『奥さん』という語は[[X の]奥さん]のようにパラメータ X を要求する非飽和名詞』（西山 2011:176）この点で、「部下」は「奥さん」と似ている。

5 「消えて解けてしまった」という表現は、原文のままである。

6 これには、スポーツ関連のニュースが影響している（轟 2014a）。

## 参考文献

- Chomsky, Noam (1981) *Lectures on Government and Binding*, Foris.
- 柏崎敏 (2013) 「どう書くか 沈黙の1年」朝日新聞 (石川) 2013年11月30日 21面。
- 木下是雄 (1990) 『レポートの組み立て方』筑摩書房。
- 中村捷、金子義明、菊地朗 (1989) 『生成文法の基礎——原理とパラミターのアプローチ』研究社。
- 西山佑司 (2011) 「曖昧表現からことばの科学を垣間見る」大津由紀雄編『ことばワークショップ——言語を再発見する』開拓社。
- 中村明 (2014) 「ことばの食感——藤沢周平、空白の妙」朝日新聞 2014年7月19日 be3面。
- 佐藤哲三、愛甲ゆかり、新藤照夫 (2007) 『基本から始める英語再入門』南雲堂。
- 轟 里香 (2007) 「映像メディアで使用される言語の変化——英語学習者に対する影響」『北陸大学紀要』第31号、125-135。
- 轟 里香 (2008) 「ニュース番組で用いられる言語の変化について」『北陸大学紀要』第32号、121-133。
- 轟 里香 (2011) 「ニュースの内容による言語的相違」『北陸大学紀要』第35号、1-12。
- 轟 里香 (2013) 「ニュースにおける省略と後置」『北陸大学紀要』第37号、169-181。
- 轟 里香 (2014a) 「テレビニュースにおける言語現象とその要因に関する一考察」*Osaka Literary Review* 第53号、33-54。
- 轟 里香 (2014b) 「テレビニュースにおける言語現象について」『北陸大学紀要』第38号、81-97。
- 轟 里香 (2015) 「テレビニュースにおける言語現象の社会的要因に関する一考察」第88回日本社会学会大会報告、2015年9月19-20日於早稲田大学 (『第88回日本社会学会大会報告要旨集』)。